

学年	教科	科目	教科書名	副教材名
高3	保健体育	体育	なし	なし

1. 授業のねらい

- 心と体を鍛えよう。
- 様々な運動に取り組むことで、生涯にわたって運動と親しみ豊かな生活を送ろうとする習慣を身につけよう。
- 安全面に注意をはかり、けがや病気をせず、健康に生活を送ることのできる習慣を身につけよう。

高校3年生の体育の授業では、先生が学習計画を立てて指導する授業と、生徒自らが自己の能力・適正や興味・関心等に応じて種目を選択し、学習計画を立てて授業を進めていくという選択性授業があります。

いずれの授業においても大切なことは、様々な運動の実践を通して、自己の能力に応じた課題を解決することにあります。そのためにも体育の授業で「自ら学ぶ」という意識を持ち、実践していくことが大切です。

2. 授業のすすめ方

- 授業の展開は、担当教諭と各クラスの体育委員を中心に進めていきます。
- 授業のはじめに本時の内容と進め方を説明します。内容をよく理解し、担当教諭、体育委員の指示に従ってスムーズに授業が進められるようにしてください。
- 授業場所の割り振り、学校行事、天候によって計画された種目ができない場合があります。
- タブレット端末を用いて動作の撮影をし、自分自身の動作を客観的に見ることで技術の向上を目指します。また撮影した画像・動画などをもとに、生徒同士で技術習得のための助言を行います。

3. 学習上の留意点

- 安全の確保・けがの防止のためにしっかりと準備体操、補強運動に取り組みましょう。睡眠不足、朝食を食べてこないために起こる集中力の低下等もけがの原因となります。
- 安全に授業に取り組む態度を心がけましょう。授業中に起こる事故やけがは人為的なものも少なくありません。常に安全に対する配慮を忘れずに用具を正しく使用し、ルールやマナーを守って事故やけがのない授業を目指しましょう。また、服装、体育館シューズ等は学校指定のものを着用し、衛生面にも気を配りましょう。
- タブレット端末の管理を徹底しましょう。撮影した画像・動画などの流用を絶対にしないでください。

4. 副教材・参考文献

- なし

5. 評価方法

(1) 技術点（100点）の内訳

「男子」 実技授業（バスケットボール・サッカー・バレーボール）を学期ごとに評価する。

「女子」 実技授業（バスケットボール・バドミントン・バレーボール）を学期ごとに評価する。

(2) 平常点の内訳

「男女共通」 授業への取り組み・意欲・関心・態度・服装・出欠席・見学。

技術点と平常点を8：2の割合にし、100点換算する。

6. 定期考査

(1) 実技テストの内容は授業の始めに説明します、授業の中でその課題を意識して取り組んでください。

テスト実施日は担当者から連絡します。

(2) 何らかの理由により実技テストが受けられない場合はレポートを課すことがあります。

指導計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一 学 期	四月	○集団行動		
		○バスケットボール ・連携プレーや個人の特性に応じたポジションを理解し、作戦を立ててゲームを行う。	○バスケットボール ・ドリブルシュート ・ゲーム	○バスケットボール ・ゴール付近のシュートを正確に打つことができる。 ・流れの中でシュートを打つことができる。
	五月	○体育祭		・攻め方、守り方などチームごと作戦を立てることができる。 ・審判法を理解する。
	六月	○【男子】サッカー ・集団による技能・戦術を練習して、チームで作戦を立ててゲームができるようにする。	○【男子】サッカー ・ドリブル ・ドリブルシュート ・ゲーム	○【男子】サッカー ・個人技能をより高め、攻守における集団技能を理解する。 ・審判法を理解する。
七月	【女子】バドミントン ・基本技術を習得し、フライングの特色を理解し、組み合わせゲームができるようにする。	【女子】バドミントン ・サーブ ・各種フライング ・ゲーム	【女子】バドミントン ・使えるフライングの種類を増やしダブルスのゲームができるようにする。 ・審判法を理解する。	
二 学 期	九月	○バレーボール ・ルールを理解し、仲間と協力してゲームの企画・運営ができるようにする。	○バレーボール ・スパイク ・サーブ ・ゲーム	○バレーボール ・ゲームのルールを理解し、競技方法や作戦を立てることができる。
	十月			
	十一月			
	十二月			
三 学 期	一月			
	二月			
	三月			

※シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。